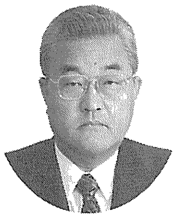
ずいそう

風景写真—自然のすばらしさ—



川 合 勝

舟が川を下りはじめると，両岸には山水画を思わせる奇峰や奇岩が次から次へと展開し，私はカメラのファインダーに釘付けとなり，夢中でシャッターを切り続けていた。

私はこの年末年始の連休を利用し，中国南西部の桂林と昆明を旅して来た。最近の中国の発展は急ピッチであるとは聞いていたが，それは北京や上海等の大都市での事で，地方はまだまだ後れた状況ではと思っていた。

しかし，今回訪れた両都市を見ると，市内の道路は拡幅整備され，郊外では高速道路の建設が盛んに行われ，町並も高層のホテルやオフィスビルが多く見られ，新しい都市に変貌しつつあった。日本でも都市の再生が叫ばれて久しいが，遅々として進まない状況を見ていると，建設業に携わる者として危機感を強くした。

今回の中国への旅の目的は桂林の漓江下りや昆明の石林のすばらしい自然をカメラに収める事にあった。

桂林では天候に恵まれず，厚い雲が垂れこめ，小雨の降る寒い一日で太陽の光を見る事が出来なかった。テクニック（？）を駆使し数多くのシャッターを切ったが，思い通りの表現が出来ず，むしろそのすばらしい風景は，自分の脳裏に焼き付けて帰って来た。

私と写真（カメラ）との出会いは，昭和20年代の後半で中学生の時であった。小学校時代絵画に興味を持っていた私が，ある事情で絵から離れ，カメラに強く惹かれた。当時はまだカメラは高価なものであり，初めてカメラを買いに行く時，母が学生服の内ポケットに，現金を入れた袋を縫付けてくれた事を良く覚えている。

その後，写真からも遠ざかっていたが，数年前，60才を目前にして，将来，現役を退いた後の人生を考えた時，何か興味を持つ事が大切と感じ，自然と写真を思い出していた。

写真を再開するに当り，今度は本格的に勉強する気持になり，約一年半文部省認定の写真の通信講座を受講した。この講座を通じ，写真の基本を学び，実際の課題に合った作品を提出し，添削指導を受けた。提出作品の撮影のため，身近な公園や景勝地に撮影旅行をする中で，日本の自然のすばらしさを発見し，風景写真に魅せられていった。その後引続き通信講座で風景写真の指導を受け，種々のテクニックや表現方法を学んで来たが，いまだ自分の写真は，自然の美しさをあるがままに記録した絵葉書の範囲を脱しきれず，自分の気持をいかにして表現するかに苦しんでいる。

風景写真を始めて，自分の中での大きな変化は，季節の移ろいを感じるようになった事である。毎朝通勤で通っている四ツ谷の迎賓館前の並木一つをとって見ても，これまで特に感じる事はなかったが，最近は，若葉……紅葉，落葉等の日々の変化を美しいと感じられるようになった。又公園や道端に咲く花にも関心を持てるようになり，四季の変化を楽しんでいる今日この頃である。

風景写真を撮る時，最も大切な点は，「光」の捕え方だと考えている。光を待ち，出会った光に瞬間を加えて，そこに自分の気持が表現出来た時が風景写真の醍醐味だと思う。これまでの，私の撮影スタイルは，時間的制約等から，連休等を利用した家族や友人との旅行の傍ら出会った風景を撮るという姿勢であった。

今後，現在の仕事を全うし，悠々自適となったら，好きで今でも度々訪れている，北海道の美瑛や上高地，乗鞍高原等で，美しく変化する自然の中で，心ゆくまで，風景写真を愉しみたい。又その為には，いつまでも健康でありたいと願っている。

——かわい まさる 鹿島建設株式会社代表取締役副社長——